

平成二七年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式
歯学科第六七回、口腔保健学科第六回、大学院第五十回
第二回入学式

式辞

桜咲き誇るころ、ここに、希望に満ちあふれる新入生の皆さんを迎えることができ、学長としてこの上もない喜びを感じております。歯学部歯学科、口腔保健学科および大学院歯学研究科に入学した皆さんに対して、大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという言葉をご贈らせていただきます。また、これまでの成長を見守ってこられた保護者の皆様方もさぞかしお喜びのことと拝察申し上げます。

本日の入学式には、小川洋福岡県知事をはじめ、かくも多くのご来賓のご臨席を賜り、衷心より御礼申し上げます。

九州歯科大学は、我が国で歯科部を有する二九大学の中で、唯一の公立大学として、百年余という長い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績を持って、歯科医学および歯科医療の発展に大きく貢献してまいりました。

本学は公立大学法人として、平成二四年度からの六年間、第二期中期計画のもとで、さらなる発展を目指して継続的な実践的歯科医学教育を進めています。この中期計画では、

その前文に、「口腔医学の総合大学」を謳い上げ、歯学科および口腔保健学科における教育の充実を主軸に掲げて活動しています。

本日、入学した両学科の学生諸君が、このような環境のもとで教育を受け、高い志をもった歯科医療人として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことを約束します。

さて、現在、九州歯科大学は、時代の流れに即した継続的な教育改編を進め、専門的医療人、すなわちプロフェッションの養成を重要視した教育を行っています。今年度、教育体制をより系統的な形に再編していくことを目的に、歯科医学教育センターを設置しました。そこで、医療系大学における教育の三つの柱である知識・技能・態度教育を有機的に連携する教育システムの構築を目指します。とくに、二一世紀に入り、医療系大学において、世界的なレベルで、プロフェッショナルリズム教育およびアウトカム基盤型教育が重要視されています。このような教育改編の潮流をいち早くとらえ、歯科医療人としてのプロフェッショナルリズムの涵養を掲げ、患者優先の考え方に立って歯科医療が行える人材の育成を推進していきます。このような教育を通じ、高い倫理観に裏打ちされた専門的能力、ヒューマ

ニズムの精神、さらには、自己の利益よりも他者の利益を優先するという利他主義を兼ね備えた歯科医療人の養成を第一義に考え、優秀な人材を社会に輩出してまいります。

このような話しをしたうえで、本日、入学した新入生の皆さんにお願いです。諸君は、将来歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本学に入学したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した、すなわち自律した大学生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に自分の日々の勉強に励むことを強く望みます。あわせて、夢と希望を失うことなく、楽しい学生生活を送ることを願っています。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。どのような学問領域であっても、それを支えているのは研究です。今後、歯学研究科における大学院生として、修士課程および博士課程で研究生活を送ることになりますが、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学における高度の研究能力ならびにその礎となる豊かな学識を養ってください。

平成二四年度、九州歯科大学が代表校として申請した、医学・歯学・工学連携プロジェクトが文部科学省の「大学

間連携共同教育推進事業」に選定されました。北九州地区に位置する九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学の四大学が単位互換を軸とした教育連携協定を結び、現在、新たな学際領域で活躍する研究者を育成しています。九州歯科大学としては、この医歯工連携を通じて、より充実した教育研究環境の整備に努めます。二一世紀の歯科医学を背負う大学院生諸君には、国内外を問わず、歯科医学および歯科医療界のフロントランナーとして、活躍することを切に願っています。

九州歯科大学は、二〇一三年から、ミャンマーのヤンゴン歯科大学およびマンダレー歯科大学、台湾の高雄医科大学、香港大学、タイのシーナカリンウイロート大学およびランシット大学、インドのシュリ・ラーマチャンドラ大学、フィンランドのヘルシンキ大学、カナダのブリティッシュコロンビア大学、あわせて九大学の歯学部と教育連携協定を結び、学生と教職員の連携を深める海外活動を行っています。昨年度は、歯学科の学生がタイのシーナカリンウイロート大学歯学部で研修生活を送り、口腔保健学科の学生が高雄医科大学歯学部で短期研修を行ってきました。今年度、タイからの留学生である Wichda さんが、本学の大学院に合格しました。

このようななかで、今年度の四月、本学に九州歯科大学基

金が設置され、この基金を活用する形で、学生諸君が海外交流活動を行う制度が出来上がりました。まさに、九州歯科大学が Global and Local Academic Collaboration を掲げ、口腔の総合大学を目指すという新たなステージに入ります。今年入学した皆さんは、このような良いめぐりあわせを大事にして、グローバルな視野を持った歯科医療人になることを切に願っています。

むすびに、フランスの偉大な哲学者であるパスカルが「パンセ」のなかで、「人間はひとくきの葦にすぎない。自然のなかで最も弱いものである。だが、それは考える葦である。」と記したうえで、「我々の尊厳のすべては、考えることのなかにある。よく考えることを努めよう。ここに道德の原理がある。」という名言を残しています。本日、この言葉を紹介し、入学生全員に対し、明日からの大学での学習および研究生活において、前向きに、そして、自ら考え、すべてのことに主体的に取り組むことを心から念願して、私の式辞といたします。

平成二七年四月二日

九州歯科大学

学長 西原 達次